

愛知東邦大学第4期中期計画概要

2026年～2030年

ブランドコンセプトとクレドに基づいた活動の推進

愛知東邦大学は、ブランドコンセプトである「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」の実現に向け、学生一人ひとりの可能性と才能を見出し、共に磨き上げることを使命としています。激変する社会をたくましく生き抜く「生きる力」を身につけるためのキャリア教育を推進するとともに、小規模大学ならではの強みを活かし、各種事業を展開してまいります。



愛知東邦大学

AICHI TOHO UNIVERSITY

オンリーワンを、一人に、ひとつ。

愛知東邦大学のクレド		
学生へのクレド	地域へのクレド	仲間へのクレド
原石は宝石	地域が教室	挑戦と創造
多様な視点と 可能性を共に見つける	愛される存在、 信頼される大学	自分だからできる貢献
成長実感の提供	未来を共創してゆく パートナー	学生に尊敬される 身近な社会人

計画概要

ブランド経営のさらなる推進

制定したブランドシンボル、コンセプトフレーズ、そして「信条・誓約」であるクレド（学生・地域・仲間への約束）を経営の中心に据え、全学的な浸透と深耕を図ります。

今後のありたい姿（主要目標）

企業・地域連携の強化

地域や企業との協働プロジェクトを大幅に拡大し、実践的な学びの場を創出します。

次世代学士課程プログラムの実装

これまでの教育基盤を発展させ、新たな価値を提供する柔軟な教育課程の刷新・導入を進めます。

キャンパス環境の整備

本学が特徴とする教育活動や地域連携と連動した、魅力あるキャンパスへのリニューアルを推進します。

個別最適な「テーラーメイド教育」の推進

学生が自分らしさを認識し、日々の成長を実感できる教育環境を整えます。

新たな事業基盤の開拓

18歳人口の減少を見据え、社会人を対象としたリカレント教育の推進など、多様なステークホルダーに向けた新規事業を構築します。

主要施策①

教育プログラム

新カリキュラム・プログラムの検討

次期長期計画を見据えた教育課程の包括的な改定、および通信制課程や共通教育課程の導入といった新たな学士課程プログラムの調査・検討を進めます。

成長実感と中途退学防止

「テラーメイド教育」のさらなる推進に向け、学生へのリコmend（情報提供）機能を強化します。また、学修行動データの適切な活用により、学生の意欲向上と定着を早期から包括的に支援します。

リカレント教育の展開

地域や企業とのネットワーク・パイプ作りを強化し、地域の発展に貢献する社会人向け教育プログラムの事業構想を確立します。

学生支援

キャンパスリニューアルの実行

新棟建設や既存の施設整備を着実に進め、特徴的な学びや地域連携の核となる活動空間を創出します。

モチベーション維持と居場所づくり

学生の居場所や賑わいを創出するための施設設備の充実、学生自らが成長を実感できるイベントの立案、および学術情報センター機能の再定義・活性化を図ります。

主要施策②

研究活動・地域連携・国際交流	
研究活動の活性化	学内の研究リソースのデータベース化を推進して情報発信に活用するとともに、外部資金（科研費等）の獲得体制を整備します。
地域連携の深化	自治体や産業界との協働による産官学連携プロジェクトの推進、地域の教員・保育士等の人材育成への貢献、さらにはサテライトキャンパスの設置検討などを進めます。
国際交流のシフトチェンジ	海外協定校の開拓から「留学生受入・国内留学キャンパス化構想」へと主軸を移し、学生全体の語学試験受験率向上を支援します。
組織行動・人事制度	
FD・SDとモチベーション向上	大学クレドに基づくコンピテンシーの構築や管理者向けの人材マネジメント研修を導入し、自主研修への補助金制度も創設します。クレド表彰制度やサークル制度の導入により、組織の連帯感と活力を高めます。
組織運営の効率化と働き方の多様化	管理職による1on1ミーティングを通じた目標管理の徹底、DXやAIツールの積極活用による業務効率化を加速します。テレワーク制度の導入などフレキシブルな労働環境を整えるとともに、多様な専門性を正当に評価できるよう教員審査基準を見直します。
内部統制の強化	私立学校法等の法令遵守、適切な理事会・評議員会運営を徹底するためのチェックリストの運用など、組織的な内部質保証の枠組みを強固に定着させます。